

公民館講座における国際交流 ～外国の伝統・文化へのお誘い～

中間市 中央公民館【公立公民館】 公民館係長 松下 友浩
職員 溝上 喜彬

1. 事業名

「世界そげなこと講座」

2. 事業の目的

外国人から直接生の話を聞き、外国の伝統・文化に触れることにより、知識を高め、国際理解を深める。

3. 事業の主体

中間市中央公民館

4. 連携・協力機関・団体等

中間市教育委員会 福岡県国際交流センター 日本語教室なかま

5. 実施に至る経緯

平成17年から始まった講座。最初は世界を取り巻く情勢や国際的構造を学ぶための講座であった。講座名も「国際講座」として始まったが、大学教授を講師に招いての講演で、硬く難しい話が主なものだった。机上の論理をいくら話されてもピンとこない、実体験に基づく話の方が耳を傾けてもらえるのではないかとこのことで、色々な国を訪れたことのある日本人から見たこと、聞いたこと、体験したことなどを中心に講演してもらう内容に。その後、外国人から日本がどのように見られているのか知ることにも国際理解を深めるためには必要ではないか、との当時の担当者の思惑にのっとり、講師をできるだけ日本人から外国人に依頼するように変更。外国人講師に直接生の話を聞くことで、「へーそげなことやったと！そら知らなかったバイ！」という感想がもらえることを想定し、講座名を「国際講座」から「世界そげなこと講座」に改名。平成22年度に講座名を改名し、今年で7年目となる。

6. 事業の内容

講師について、現在は福岡県国際交流センターの登録講師に依頼している。全6回講座となっており、5回は国際交流センターの登録講師に、残りの1回は中間市教育委員会ALT（外国語指導助手）の先生4名に講師依頼をしている。

内容は、各国の文化や歴史、生活習慣などについてパワーポイントを使っての紹介。その際、日本と外国を比べての話や、日本に来て驚いたこと、「私が見た日本、福岡に

ついて」などについての話をしてもらおう。その他、受講生も一緒に伝統的なダンスを踊ったり、楽器を演奏したりと、話を聞くだけの受け身の講座でなく、受講生も参加できる講座となっている。講座の最後には少し長めに質疑応答の時間を設けることで、受講生が普段疑問に思っていることを直接聞く機会を設けている。

※全6回の講座のテーマと様子について

○ルワンダの文化・生活
(伝統舞踊紹介)



○イタリアの52箇所の世界遺産
(パスタを使ったクラフト作り)



○エジプトの文化と歴史
(民族衣装の紹介)



○インドネシアの文化と生活
(民族楽器の演奏)



○ALT 4名とのおしゃべりタイム



○ウガンダの人々と文化
(伝統舞踊の紹介)



イタリアでは見た目を重視し、全ての市や町で屋根の色が決まっている。家を建てる時は、色に関して市に許可をもらっている。との話や、インドネシアには約13,000の島々があり、そのうち約3,500の島々に人が住み生活している。島国なので火山は多いが、日本のような温泉文化はない。など実際にその国で生活していた講師にしかわからない内容の話も多かった。

7. 事業の成果

毎回違う国の講師の話聞くことによって、直接海外の人から話を聞くことができ、国際理解を深めることにつながった。また、外国と日本の違いについてなどの話を聞くことによって、外国について知ることが出来ただけでなく、改めて日本についても考え直す良い機会になったのではないかと思われる。

8. 今後の課題

講師依頼について出身国の重複、地域の偏りが出ないようにすること。毎年講座を受講している方もいるため、過去3年間は出来るだけ重複しないように派遣依頼をしている。

また、受講生の高齢化、若い世代をどうやって呼び込むかという点も大きな課題となっている。

問い合わせ先

〒809-0014 福岡県中間市蓮花寺三丁目1番1号 中間市中央公民館
Tel:093-246-2321 Fax:093-246-0277
Mail:kouminkan@city.nakama.lg.jp